社説

新人物の登用

年來內閣員の更迭は度々にして其政府は何れも人材を登用して政府を刷新す可しと云はざるはなし而して官吏の交代は實際甚だ頻繁なれども出る者も入る者も相變らずの人物にして其間に新顏の人を見るは殆んど稀なり或は地方廳より中央政府に入り或は中央政府より地方廳に出で又は甲の府縣より乙の府縣に轉任するみと即ち所謂官吏の交代にして偶々新に採用するみとあるも大抵は嘗て某省若しくは某廳に奉職したるものにして純粹なる民間人士を採用したるみとなきは何故なるや幸にして野に遺賢なく政府の役人は皆當世の俊才にして文明の政務を處理するに適したる人物ならんには右の如くにても敢て差支なしと雖も實際官吏中には古臭き人物も少なからず頭は散髮にして身には洋服を纏へども思想は尙ほ支那流儀を脫せずして動もすれば儒教主義を以て民を治めんとするものあると同時に民間を見れば文明流の敎育を受けて今日の事態に通じ多年政界に奔走して相應の名聲を博し政治の事は甘酸共に嘗め盡くして其腕前も慥なる者なきに非ず何故に政府は此邊を採用して其面目を一新せざるか蓋し大臣の地位には限りありて此輩を容るゝの餘地なく次官局長なども事務官にして內閣の更迭と共に其人を代ふ可らず今日進步黨の筋にて政權を得たればとて從來の官吏を免職して代ふるに其黨員を以てせば後日他黨の人が時を得たるときは同じく其黨員を採用して前任者を排斥し遂に黨爭の影響を政治の全面に波及せしむるの憂ある可しとて扨は遠慮して用ひたき人物も態と用ひざるみとならん尤も至極の次第にして大臣の更迭と共に政府全體の動搖は好ましからぬ事なれども今は政界變遷の時代にして既に政黨と事を共にするに非ざれば內閣も維持す可らざる程の勢なれば政黨員の中より人物を採用するに不思議はある可らず一方に於て政府は人物の拂底に窮し一次官が辭職すれば容易に其後任を得ず一公使が其任を去れば何時までも空位を充す能はざるに他の一方を見れば自から當世向きの人物に乏しからず一たび實際に政務を料理して其腕前を示さんと竊に時機の至るを待つものあり恰も互に思ひ思はれながら只その政黨員たるの故を以て用ふるみと能はずとは如何にも窮屈千萬に非ずや政黨員なるが故にとて其伎倆如何を問はず投くるに官を以てせんとするは固より不可なれども政黨員なるが故に人物は宜しけれども用ひずと云ふも亦不可なり或は民間の政客は官吏として經驗なきが故に採用するみと能はずと云はんか何人も初めより經驗のある可き筈なし官吏の經驗は官吏となりて後に出來るものにして今の官吏も生れながらにして官吏の經驗ありしに非ざるは勿論のみとなり若しも經驗なきが故に用ふるみと能はずと云はゞ民間の政客は終身官吏と爲るみと能はず官吏も遠からず種切れと爲るみと[illegible]らん特に內閣更迭の餘波を次官以下の事務官にまで及ぼすは不可なりと云ふと雖も今日にても內[illegible]局長、地方官、書記官、公使等に多少の[illegible]なれば[illegible]の政黨員中より人物を採用すれば以て政の實際に著るしき相違はある可らず只その人の才能如何を觀るのみ更に一歩を進めて論ずれば藩閥の長老も既に老して前途長からず或は既に政界の劇務に堪へざるものもある可く或は時勢後れの人と爲りしもある可し此時に當りて其繼續者を定むるは至當の事にして或は第二流三流の藩閥人士を以て政府を組織するをもある可しと雖も元老の威望を以てするも尙ほ且つ政黨員の力を借らざれば立つみと能はざるの今日に於て二流三流の藩閥人士のみを以て內閣を作らんみと思ひも寄らざる所なれば今の政黨員中の重なる人々は何れ遠からず大臣の列に加はる可きや明白なり運命既に斯くと定まりたる上は今より其覺悟にて事を處し民間より新人物を採用して次官なり局長なり地方長官なり將た公使なり夫れ〳〵其器に應じて相當の官に就かしめ自然に其地位を高め其身分を重くして後日の用意を爲すみそ智者の計なれ元老既に老いて後進の士、地位未だ高からず木に接ぐに竹を以てするが如き變化を見るは政界の慶事に非ざるなり

○皇太后陛下御大患

皇太后陛下には感冒より御風氣に渡らせられ其後一時御輕快に赴かせられしも去る四日より御病症肺炎に變じさせられたれば池田侍醫を始め各侍醫晝夜詰切にて御看護申し上げ居るも何分引續きての御病氣と申し御疲勞殊に甚だしく御食慾は殆んどあらせられずして僅にアイスクリームを少々づゝ召さるゝに過ぎず左れば各侍醫は非常に痛心申し上げ昨夜は松方總理大臣を始め各大臣各顧問官宮內官吏等孰れも深更を冒し青山御所へ參內して御見舞申し上げしと承はる

（以上昨日第一號外再錄）

○皇太后陛下の御容體

畏くも皇太后陛下御病氣御大患に渡らせ給ふを以て池田、橋本、岩佐、三浦の各侍醫は兩三日來晝夜詰切にて御看護申上げ各大臣樞密顧問官宮內省官吏等深更を冒して青山御所へ參內御見舞申上げたる事は已に今朝の號外を以て報道したるが尙ほ最近の御容體を伺ひ奉るに昨十日午後より御病勢漸次御增進御左右肺とも炎症蔓延し御體溫、御脈搏、御呼吸等左記の通りにして御體質至つて宜しからず御心臟漸々麻痺、御肺水腫の徵候あらせられ容易ならぬ御容體なりと承はる

一月十日午後六時
御體溫　三、九五　御脈搏　一二六
御呼吸　五〇
同日午後十時
御體溫　三、九三　御脈搏　一二六
御呼吸　五六
十一日午前六時
御體溫　三、九〇　御脈搏　一二六
御呼吸　五八

○兩陛下の行幸啓

天皇、皇后兩陛下には皇太后陛下の御病勢前項の如くに渡らせらるゝ由聞食され深く大御心を惱まし給ひ兩陛下にも目下御風氣に渡らせらるゝに拘はらず侍醫の外氣に觸れさせ給はんみとを慮て御諫め申上げ奉りたるをも御聽許なく本日午前八時前御出門鹵簿御一列にて青山御所へ行幸啓在らせられ御病室に就て親しく御容體を伺はせ給ひ同十時前還御在らせ給ひたるが兩陛下とも御氣色いと勝れさせ給はざる樣仰ぎ奉りぬとぞ

○青山御所の光景

皇太后陛下の御病氣容易ならず渡らせらるゝに付ては各親王同妃殿下を始め奉り大臣以下百官の有司は孰れも恐懼措く能はず御見舞として前夜來青山御所に參內ありしに付御所內は勿論青山通りは馬車乘馬腕車等織るが如く其混雜の狀大方ならずと云ふ

○貴族院の休會

貴族院は昨日午前十時十分開會し近衞議長は滿場の議員に向ひ畏れ多くも皇太后陛下には一昨八日より肺炎症に罹らせられ昨今御危篤の趣き承はるに付本日は御遠慮申上げ休會する事となしては如何と諮りたるに誰か異議あるべき滿場異議なし〳〵と答へしかば議長は明日の議事日程は豫て配布したる者の外なき旨を告げ直に散會せり

○衆議院の休會

又衆議院は午後一時廿分開會議長より議事に先ち報告すべきみとありとて今朝午前一時卅分其筋より皇太后陛下御重症の趣通牒に接して痛心に堪へず直に青山御所に伺候したり又兩陛下には深く御痛心あらせられし由に拜承せりと報告し此報告了るや大東義徹氏は臣民の情として恐懼に堪へざれば本日一日議事を休會し議長は本院を代表して青山御所に伺候し又兩陛下をも御見舞申上げんみとを望むとの動議を提出し滿場異議なく議決し散會せり

○松方總理等の參內

松方總理大臣并に樞密院議長には昨日午前十時四十分前後馬車を聯ねて宮中に參內し天顏に咫尺して皇太后陛下御病氣に付天機を伺ひ奉り次で皇后陛下にも拜謁同樣御見舞申上げたる上正午頃退出したり

○貴衆兩院議長の天機伺

昨日午前一時三十分杉皇太后宮太夫より皇太后陛下去る八日より御不例に渡らせられ御大患の旨貴衆兩院議長へ宛て通牒ありしに付き兩院議長は即刻青山御所に參候して御容體を伺ひ奉り又參內して兩陛下の御機嫌を伺ひ奉れり

○茶會話の延會

大隈伯の茶話會は今十一日の筈なりしが別項に記し奉りたる皇太后陛下の御大患に付他日に延會する事と爲りたるよし

○毎月會の延會

東京橫濱實業家より成立せる毎月會は今十一日三井俱樂部に於て開會す可き筈のところ同會幹事は今朝時事新報の第一號外に接して皇太后陛下御大病の由を承り恐縮の至りに堪へずとて遠慮するに決し同會は遂に延期する事と爲りしよし

（以上九件昨日第二號外再錄）

○御病前の御模樣

皇太后陛下には平素至つて御健かに渡らせ給ひ昨年十月中少しく御胃病に罹らせ給ひたるも侍醫等の御看護に依り間もなく御全快遊ばせられ常に御容體に聊かの異狀なく目出度新年を迎はせ給ひ去る五日には御附の

氏を始め
會を催させ
れば本月三
の御祭典を、
參拜として
都を御發輦
の折から去
炎肺に變じ
と承はる

○

一昨日侍醫
左に揭ぐ
昨夜御胸
午前三時
程御睡眠
所は少し
は遠せら
られ御總
明治三

皇太后陛
伺候（御引）
御脈質は
御同樣御
在候得共
御容貌御
れば御老
御重症と
計候へど
候へば實
仕候也
明治三

文部省訓令

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、